

1. 実況上の着目点

① 500hPa5760m 付近のトラフに対応し、日本の東を東北東へ進む低気圧から、前線が日本の南を通して沖縄の南にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、沖縄の南の海上では発雷を検知。

② 500hPa 5760～5820m 付近の正渦度極大域が華南を東進、この進行方向前面で対流雲が発達している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 28日は、1項①の低気圧は発達しながら日本のはるか東へ進む。また、黄海付近の高気圧が本州付近へ移動し、前線は日本の南では一旦不明瞭になる。

② 28日は、500hPa5400m 付近のトラフに対応する低気圧がオホーツク海を東北東進。この低気圧と中国東北区を南東へ移動する高気圧との間で、北日本では気圧の傾きがやや大きくなり、やや強い風が吹く所がある。強風に注意。

③ 1項②の正渦度極大域に対応して、28日朝までに華南～東シナ海に前線が顕在化、前線は28日夜には南西諸島にのび、29日夜には前線上に発生するキンクが九州南部付近に進む。また、29日は、華北から朝鮮半島付近へ進む500hPa 5700m 付近のトラフに対応して、朝までに東シナ海に発生する低気圧が夜にかけて対馬海峡付近へ進む。

④ 2項③の前線や低気圧に向かい、850hPa θ_e 336K 以上の下層暖湿気が流入し、南西諸島～西日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。南西諸島では29日にかけて、西日本では29日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。

⑤ 2項③の前線や低気圧の近傍では気圧の傾きが大きくなり、西日本では29日は、強い風が吹いて波が高くなる所がある見込み。強風や高波に注意。

⑥ 西日本～東日本は28日は、2項①の高気圧に覆われる。また、中国東北区に中心を持つ高気圧が北日本に張り出す。北日本～東日本では29日にかけて、850hPa の気温が平年と比べて5℃以上高い状態が続く。晴れて気温が上昇し、最高気温が30℃以上の真夏日となる所がある。暑さに慣れていない時期のため、熱中症などの健康管理に注意。また、北日本～東日本の多雪地では29日にかけて、融雪やなだれにも注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM 基本、量予想や降水分布はMSM やLFM も参考。2項③の低気圧や前線の位置については、初期値変わりやモデル間の予想差が大きい事に留意。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

①大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図